

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年4月17日(木)に実施した「令和7年度全国学力・学習状況調査」について、かすみがうら市の児童生徒の傾向をお知らせいたします。

【全国学力・学習状況調査の目的】

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

【調査の対象】

第6学年及び第9学年の全児童生徒

【調査の内容】

○教科に関する調査

小学校(国語, 算数, 理科) 中学校(国語, 数学, 理科)

※中学理科は、パソコンを利用したテスト形式(CBT)で実施

○質問紙調査 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面などに関する内容

【結果の概要】

各教科及び質問紙調査について、かすみがうら市の結果として特に良かった点と、特に課題が見られた点についてお知らせします。(特に良かった点○, 特に課題が見られた点●)

【国語】

小学校

○インタビューにおける聞き取り能力の良好な定着が見られました。自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができていました。これは、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える能力が満足できる状況です。

○図表を用いた基礎的な表現が定着しています。引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについて、概ね満足できる状況です。この結果は、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」という書くことに関する基礎的な能力が、多くの児童に備わっていることを示唆しています。

●漢字の同音異義語の使い分けにおける課題が見られました。学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う知識及び技能に課題があります。特に、同音異義語の漢字(例:「熱」、「厚」)の使い分けに課題を抱える児童が多いと考えられ、基礎的な語彙・漢字知識の確実な定着に向けた、よりきめ細やかな指導の充実が必要であると考えられます。

中学校

○登場人物の設定の仕方を捉える能力に成長が見られました。物語文において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の性格設定を捉える能力が概ね満足できる状況です。登場

人物の描写からその人物像や相互関係を的確に把握することができていました。

- 相手の反応を踏まえた表現の工夫能力が優れていました。スピーチの場面設定において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することは、満足できる状況です。これは、話の受け止め方や理解の状況を捉え、聞き手の興味・関心や情報量を考慮しながら、語句の選択、話す速度や音量などを工夫する能力が概ね満足できる状況です。
- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることを苦手にしています。物語の内容を適切に引用し、展開を踏まえて理由を説明することに課題がありました。生徒が物語を多角的に読み解き、文章の構成や展開が読者に与える影響について、明確な根拠をもって考察する能力を培うことが必要です。

【算数・数学】

小学校

- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることは、概ね満足できる状況でした。棒グラフからデータの特徴や傾向を読み取る際に、目的に応じて、差を求めたり、何倍かを求めたりするなど、項目間の関係を読み取る力が求められます。
- 角の大きさを比べる際に、角を作る辺の長さの大小と角の大きさの大小を混同することなく、辺の開き具合に着目して比べることができていました。方眼上に描かれた図形の角の大きさについて問う問題では、角を作る二つの辺を伸ばしても角の大きさは変わらないという性質を十分に理解していました。
- 数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることが不十分であることが分かりました。数直線上に示された数を分数で書くことの理解に課題が見られました。この課題に対しては、0から1までの等分数に着目して単位分数を正確に捉える指導を充実させます。

中学校

- 昨年度課題のあった〔データの活用〕の領域において、改善が見られました。必ず起こる事柄や決して起こらない事柄の確率について、比較的よく理解していることが分かりました。多くの生徒が確実に起こる事象の確率が1であることを理解できていました。
- 事柄が常に成り立つとは限らないことの説明することが、概ね満足できる状況でした。問題では、連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことについて、反例を挙げて説明をする文章を完成させることができていました。
- 素数の意味の理解において課題が見られます。1が素数に含まれると捉えている生徒が多いと考えられます。素数は約数、倍数などの整数の性質を捉え直す上で重要な基礎概念です。整数の性質について考察する場面において、整数を様々な視点で分類し、1より大きい自然数の

うち、1とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導します。

- 一次関数の変化の割合の理解が不十分であることが分かりました。一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることに課題がありました。 x の増加量に対する y の増加量を求めることと、 x の値から y の値を求めることの違いを比較し、その過程と結果を考察する活動を充実させることで理解を深める指導を充実させます。

【理科】

小学校

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の実験条件設定に関する理解が概ね満足できる状況です。実験の方法を発想し、変える条件と変えない条件を整理しながら、条件を正しく設定する能力を身につけていることが分かりました。
- 水の温度による体積変化を根拠とした海面水位上昇の予想ができていました。「水は温まると体積が増える」という知識を根拠に、海面水位の上昇理由を予想し表現する等、学習した内容を自然現象と関連付けて概念的に理解できていることが分かりました。
- 身の回りの金属の性質(電気の導通性・磁性)に関する知識の定着が不十分でした。児童が学習した知識を身の回りの具体的な事物・現象と関連付け、さらに様々な内容で習得した知識を整理することで、単なる知識の暗記ではなく、概念的な理解を促進する指導を充実させます。

中学校

- 実験における安全確保の知識の定着が非常に満足できる状況でした。加熱を伴う実験における火傷の応急処置に関する問題で正答率が高く、実験時の危機管理能力が非常に優れていることが分かりました。
- 電圧・電流・抵抗と発生する熱量との関係を関連付けて捉えることが概ね満足できる状況でした。電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識が身に付いていることが分かりました。
- 地層の広がりを検討し表現する能力に課題があることが分かりました。時間的・空間的な視点から大地の変化を捉え、科学的な根拠に基づいて地層の広がりを推論し表現することを苦手としています。複数の地点の地層を比較できる地層モデルを活用した体験的な学習活動を行うことで、地層の広がり方や傾きを空間的な視点から捉える力を養います。

【質問紙調査】

小学校

- いじめに対する強い否定的な意識と高い規範意識が身に付いていることが分かりました。児童の97.6%が、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答しました。ほぼ全ての児童がいじめに対して明確な否定的な見解を持っていることがわかります。この高い規範意識は、学校における安全で安心な学習環境の基盤となります。
- ICT機器を活用した授業による学習内容の理解が促進されていることが分かりました。「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かりますか」という質問に対し、児童の42.3%が「とてもそう思う」、46.1%が「そう思う」と回答し、合計で88.4%の児童が肯定的な見解を示しました。これは、全国(公立)調査を上回る結果です。特に「とてもそう思う」と回答した児童の割合が高い点は、ICT機器が児童の学習理解に効果的に寄与していることを示しています。テスト結果との相関関係分析の結果からも、この項目に「とてもそう思う」と回答した児童は、国語、算数、理科の平均正答率が最も高いことが示されており、ICTを活用した多角的な学習が学力向上に繋がっていることが伺えます。
- 新聞を読む習慣の不足していることが分かりました。「新聞を読んでいますか」という質問に対し、児童の81.0%が「ほとんど、または、全く読まない」と回答しました。これは全国の77.6%と比較して、新聞を読む習慣がない児童の割合が高いです。新聞を読む習慣は、多様な情報に触れ、読解力や社会への関心を育む上で重要であり、学力にも影響があると考えられます。
- 学校の授業時間以外での学習時間の不足していることが分かりました。「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問で、児童の28.2%が「30分より少ない」、35.4%が「全くしない」と回答し、合計で63.6%の児童が学習時間が短い、または全く学習していないことが明らかになりました。これは、全国の合計58.0%を上回る結果であり、家庭学習の習慣の定着が課題であると考えられます。

中学校

- 規則正しい生活習慣(早起き)が確立できていることが分かりました。「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対し、「している」と回答した生徒の割合は、64.7%でした。これは、全国の54.7%と比較して、10ポイント高い結果です。規則正しい生活習慣、特に早起きの習慣は、健康な生活基盤を築き、学習活動への集中力を高める上でも非常に重要です。この良好な傾向は、生徒たちの学力向上にも良い影響を与えています。
- 高い自己肯定感が育まれていることが分かりました。「自分には、よいところがあると思いますか」に対し、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の合計は、86.1%でした。これは、全国の合計の76.3%と比較して、9.8ポイント高い結果です。生徒が自

信を持って様々な活動に挑戦し、困難に直面した際にも前向きに取り組んでいる様子が伺えます。

- 読書習慣の定着が不十分であることが分かりました。「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」に対し、「30分以上」と回答した生徒の合計割合は、18.4%でした。これは、全国の合計の34.8%と比較して、16.4ポイント低い結果です。読書は、語彙力や読解力、思考力、表現力といった学力の基盤となる能力を養う上で不可欠です。読書機会の促進と習慣化が、今後の重要な課題と考えられます。
- ICTを活用したプレゼンテーション作成能力に自信がない生徒が多いことが分かりました。「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができますか」に対し、「とてもそう思う」または「そう思う」と回答した生徒の合計割合は、50.8%でした。これは、全国の合計の57.9%と比較して、7.1ポイント低い結果です。これからの時代を生きる子どもたちは、今まで以上にICTを活用した情報発信や表現能力は重要なスキルとなっています。より実践的な指導の充実を図ってまいります。

【まとめ】

※今回の調査結果より、今後も学力向上の取り組みを継続していく必要性が明らかとなりました。各教科の基礎的・基本的な知識および技能の定着に加え、思考力、判断力、表現力を育成するための指導の充実が特に求められます。児童生徒が自ら課題を見つけて解決する過程や、学習を通して得た知識を活用できるような指導の充実が求められています。また、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導の具体化、そして個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、市全体の学力向上とウェルビーイングの実現を目指してまいります。

※この調査において測定できるのは学力の特定の一部、学校における教育活動の一側面であり、学力の全てを評価するものではありません。

今後も、学力向上に向けた授業改善に取り組んでいきます。

また、アンケート調査から、家庭での生活習慣や学習の取り組み方も、学力に影響があることがわかりました。

引き続きご家庭でのサポートをよろしくお願いいたします。